

独立歩兵第七旅団
独立歩兵第二百十六大隊

部隊略正

年月日	概	要
昭、一九、一、二	昭和十八年軍令第二十五号により独立歩兵第二百十六大隊漸成下令	
一九、一、二	編成業務着手	
一九、一、三	中華民国江西省九江京九江に於て編成完結	
一九、一、三	大隊長陸軍中佐本多素治以下將校三十八名准士官四名下士官一八名兵一六七名 計一四二七名	
一九、三、七	中華民国湖北省武漢京此穴移駐	
一九、三、三	中華民国江西省新建県植園方着	
一九、四、七	南昌周辺地区の警備	
一九、四、七	川崎大隊、暫時編成止りれ才五中隊主力中華民国湖南省信陽県信陽附近への 集結並に京漢作戦参加	
一九、四、七	参加時の死致人員	
一九、四、七	戦死將校一、兵六	
二〇、一、二〇	補充要員として内地人四七二名朝鮮人五一一名現校初年兵到着	

年月日	概	要
昭二〇、三、九	<p>加 津直轄派遣（岩本）大隊要員として湘贛中尉以下八一七名長沙附近の討伐に参 加</p>	<p>参加時の死歿人員 戦死 兵一</p>
二〇、三、一五	<p>昭和二十年軍令陸甲才一八号に依り在支部隊臨時編成中三ニニ次復籍に依り 編成改正</p>	<p>昭和二十年軍令陸甲才一八号に依り在支部隊臨時編成中三ニニ次復籍に依り</p>
二〇、三、一〇	<p>着手</p>	<p>着手</p>
二〇、三、一五	<p>編成完結</p>	<p>編成完結</p>
二〇、三、一五	<p>大隊長陸軍中佐本多篤治陸軍歩兵学校附に転属</p>	<p>大隊長陸軍中佐本多篤治陸軍歩兵学校附に転属</p>
二〇、八、一八	<p>停戦詔書発布</p>	<p>停戦詔書発布</p>
二〇、八、一八	<p>復員下令</p>	<p>復員下令</p>
二〇、九、二	<p>停戦放棄、締結</p>	<p>停戦放棄、締結</p>
二〇、九、二	<p>中華民国江西新運軍大塘蔡村に集結</p>	<p>中華民国江西新運軍大塘蔡村に集結</p>
二〇、五、一九	<p>九江地区集結のため大塘蔡村出發</p>	<p>九江地区集結のため大塘蔡村出發</p>
二一、五、二五	<p>内地帰還のため中華民国江西省九江泉九江出發</p>	<p>内地帰還のため中華民国江西省九江泉九江出發</p>
二一、五、三一	<p>上海着</p>	<p>上海着</p>

昭二、六、一六
三、六、三入

上海出帆 人員九四四名、六月十九日佐世保港到着

佐世保上陸

復讐時に於ける人員内訳

將校二四、准士官一、下士官一七〇、兵七四九 計九四四

外地先遣者 將校一、准士官一、下士官三、兵三 計八

上海地区残留者 大隊長村上大尉(伝令)

入院患者 四七名

部隊編成以采現在迄の死致者 六五名

(193)

0206

独立歩兵才七旅団
独立歩兵才二百十七大隊
部隊略正

年月日	概	要
昭一、九、二一	昭和十八年軍令陸甲才一一五号に依り独立歩兵才二百十七大隊編成下令	
昭一、一、三二	編成業務に着手	
昭一、三、一	中華民國江西省新建縣望城崗に於て編成完結	
	大隊長小崎幸吉以下將校三八名	
	准五名、下士官一五〇名	
	兵一二三四名 計一四二七名	
昭一、二、九	中華民國江西省星子縣蓮子に移駐	
昭一、二、一五	中華民國江西省南昌縣南昌に移駐	
昭一、三、一	中華民國江西省安義縣安義移駐	
昭一、三、一	中華民國江西省安義縣附近警備	
昭一、九、二	補充員として内地人四六〇名、朝鮮人五五名(内五名輸送途中)に於て逃	
昭一、一、二〇	亡に没領す	
昭一、三、一五	昭和二十年軍令陸甲才十八号に依り支部隊臨時編成才三二二(復員)に依り編成改	

(197)

0207

昭、二〇、三、一〇	着手
二〇、三、一五	編成完結
二〇、三、一九	軍直轄派遣大隊（岩本大隊）要員として岩本大隊以下一〇名河南省信陽県
二〇、八、一四	衛南及河南省長沙嶺南鞍橋附近警備の爲派遣
二〇、八、一八	派遣時の死歿人員を以てし
二〇、九、二	停戦許諾發布
二〇、九、二	復員下令
二〇、九、二	停戦決定締結
二〇、九、二三	中華民国江西省新建縣大瀆街に集結
二一、五、一九	九江地区集結の爲の中華民国江西省新建縣大瀆街出発
二一、五、三五	中華民国江西省九江縣九江出発
二一、五、三一	中華民国浙江省上海に到着
二一、六、一二	中國側の要求に基き大隊長山崎少佐（佐令及再兵長帶同）は当分の間上海に
	留置せらる
二一、六、一六	右に伴い岩本大隊に大隊長代理を命ず
二一、六、一八	内地帰還の爲岩本大隊以下九七五名上海出発
	航行中軍合軍司令節よりの指令無題に依り本船（LST 039号）はコレラ検査

(175)

0208

独立歩兵才七旅団
 独立歩兵才二百十八大隊
 部隊略正

年月日	概	要
昭二八、三、一〇	<p>軍令陸甲才十五号に依り独立混成才十七旅団に独立歩兵才二百十八大隊編成 下令</p>	<p>編成業務着手</p>
一九、一、一四	<p>中華民國湖南省成留に於て之編成完結</p>	<p>大隊長陸軍少佐川奇隆雄以下將校二八名准士官一〇名下士官一四五名共一二三四名 計一、四二七名</p>
一九、三、三三	<p>中華民國江西省九江に集結同地に於て之軍風紀並國術演習の爲集結訓練</p>	<p>樁兵団より警備断承のため江西省永修縣建昌に移駐</p>
一九、四、一五	<p>永修地区隊長陸軍少佐川奇隆雄</p>	<p>樁兵団より警備断承左の如し</p>
一九、四、一八	<p>独立歩兵才二百十八大隊本部才一中隊才四中隊、才五中隊 南昌附近警備の爲才二中隊及才三中隊を南昌市に派遣独立歩兵才二百十五大隊長陸軍中佐米山靖正の指揮に入らしめ同地附近の警備に従事す 軍作命に基き湘桂作戦参加の爲大隊長川奇少佐派遺混成大隊長となり混成川</p>	

(197)

0210

年月日	概 要
<p>昭一九、七、七 一九、七、二六 二〇、一、一〇</p>	<p>番大隊を編成同日南冒出張湖南湖北の各地東正討伐を実施す 派遣部隊左の如し 独立歩兵才二百十八大隊主力才三中隊、歩兵砲隊通信隊の主力及独立歩兵 才二百十五大隊の一中隊独立歩兵才二百十六大隊の一中隊独立歩兵才二百 十七大隊の一中隊 この間才二中隊長陸軍大尉坂本英雄留大隊長兼永修地区隊長となり建冒に位 置警備勤務を履行す 昭和十九年度補充要員として兵十六名到着 同右將校二名下士官一二名兵三十六名到着 戦死下士官二名 兵二名 配備変更の海永修地区隊は才五中隊長北川大尉兼務主力は南冒に移駐独立歩 兵才二百十五大隊より南冒附近警備を継承す 兵力配置区分左の如し 南冒地区隊 独立歩兵才二百十八大隊本部 才三中隊、才四中隊、歩兵砲隊、通信隊 独立歩兵才二百十五大隊の一中隊</p>

(178)

0211

二一、五、二三	江西省九江到着
二一、五一九	内地帰還の海軍城出発
二〇、八一五	江西省南昌及貝城に於て停戦及復員業務に着手
二〇、九、二	停戦協定締結
二〇、八、一八	復員下令
二〇、八、一四	停戦協定締結
二〇、四、三九	大隊長陸軍大尉 坂本英雄
二〇、四、三九	輯出す
二〇、四、三九	大隊長陸軍少佐川崎陸雄以下三〇〇名独立歩兵才六百一大隊編成復員とし之
二〇、四、三九	軍令陸甲才十八号に依り編成改正
二〇、三、二九	單中尉吉沢政男以下百十一名を編成復員とし之派遣す
二〇、三、二九	旅團は歩兵約一ヶ大隊を編成独立歩兵才二百十八大隊より才三中隊長代理陸
昭二〇、三、五	昭和十九年夏初年兵として山浦義晴以下五二一名到着
昭二〇、三、五	才一中隊（張公渡）
昭二〇、三、五	才五中隊（涂家埠）
昭二〇、三、五	獨立歩兵才二百一七大隊の一中隊
昭二〇、三、五	永修地区隊

(199)

0212

年月日	概 要
昭二、五、二九	九江出港
二、六、三	江蘇省上海到着
二、六、一七	上海出港
二、六、一九	左世保入港
二、六、二八	左世保港浦頭に於て上陸同日復買を了す
二、六、二九	陸軍大尉鈴木六郎以下九七名夫々出身地に向け出港す

(200)

0213

独立歩兵才七旅団
 独立歩兵才七旅団通信隊
 部隊略正

年月日	概	要
昭一八、三、 一九、二、四	編成業務着手	陸令陸甲才百十五旅団独立歩兵才七旅団師団隷下隊編成下令
一九、一、三一	江西省九江泉九江に於て編成完了	
一九、三、三二	通信隊長陸軍大尉村上武雄以下解放三名准士官一名下士官一四名兵九三名	
一九、七、二六	中華民國江西省南昌縣南門に移駐	
一九、一〇、二七	才五十二師団通信隊より兵三名補充	
一九、一、一〇	通信隊長陸軍中尉 藤田 豊	
一九、二、一〇	歩兵才六連隊に補充交代要員として内地補給下士官一名	
二〇、一、一九	歩兵才六連隊より交代要員として下士官一名補充	
二〇、三、二一	踏和十九年徵集徴役兵として才五十二師団通信隊より兵三十七名補充	
二〇、三、二一	戦死一名	
一九、三、二二	江西省南昌縣南門に於て南門附近の警備	
二〇、八、一三		
二〇、八、一四		序戦詔書発布

(201)

0214

年月日	概要
昭二〇、八一八	復員下令
二〇、九、二	停戦後定締結
二〇、一〇、五	中華民国江西省新建縣吳城之集結
二一、五、二〇	中華民国江西省新建縣吳城出発
二一、五、二三	中華民国江西省九江泉九江着五月三十日同地出発
二一、六、三	浙江省上海に到着
二一、六、一七	浙江省上海出発
二一、六、三四	慶恩島港上陸
二一、六、三四	復員式

(202)

0215

独立歩兵第11旅団略正

<p>左記の如く発令せらる</p> <p>陸軍少将 野下 文夫</p> <p>新 独立歩兵第11旅団長（昭和十九、二、二〇付）</p>	旅団司令部	武 昌	編成担当官	<p>昭和十九年度、軍令陸甲第十九号並軍令陸第百十五号に換り三月十五日左記の如く編成を完結す</p> <p>左記</p>	<p>年月日</p> <p>昭和十九年三月十五日</p>
	独立第231大隊	武 昌	編成担当官		
	独立第232大隊	南 昌	編成担当官		
	独立第233大隊	九 江	編成担当官		
独立第234大隊	鷹 城	編成担当官	編成年度		
旅団通信隊	鷹 城	編成担当官	編成年月日		
<p>第11軍司令部</p>			昭和十九年		
<p>昭和十九年</p> <p>三月十五日</p>					

(203)

0216

年月日	概	要
昭一九、三、一七	<p>旅団は編成完結と共に武漢北方王とし之京漢線に沿う地区の警備の担任を命ぜられ三月十七日各々編成地を以て左記の如く警備担任地区に前進す</p> <p>左記</p>	<p>昭和十九年四月十五日 才三師団と警備交代を終る</p>
部隊番号	警備地区	警備地区隊長
旅団司令部及通信隊	應山	陸軍大尉 田中 桓雄
独歩才二三三大隊の二中隊	黃陂地区	陸軍少佐 蒼下 実
独歩才二三一大隊	浙河地区	陸軍中佐 窪田 太郎
独歩才二三三大隊の主力	汜水地区	陸軍少佐 上村 欽一郎
独歩才二三四大隊	信陽地区	陸軍少佐 荒木 三治郎
<p>一九、五、一、京漢線打通作戦の進展に伴い北支軍の南下に際しての急遽作戦参加を命ぜられ旅団長は各警備地区より歩兵三大隊を基幹とする兵力を抽出、別に歩兵三大隊、砲兵一大隊、工兵一大隊を精鋭隊編成せられ信陽地区に集中、五月一日行動発起、明港、確山地区に前進し、該地附近を確保し南下兵団の進出を容易ならしむ</p>		

(204)

0217

昭、一九、五、初旬	南下兵団の進出に伴い掩護の任を終り
一九、五、下旬	瀋陽駐屯部隊は原所居に帰還、遼下諸隊は逐次南下諸部隊と警備を交代し
一九、六、初旬	派警備地区に帰還す
一九、五、中旬	五月中旬頃より浙河隴嶺正面に中央軍の反攻ありしも旅団主力の帰還に伴い阻止し大なる変化を覓ず
二〇、四、二九	爾後諸隊は警備担任地区にあり之數着訓練に任ずるの外一部の部隊を以てする兩正工休を喫進す
二〇、四、一	四月下旬新設部隊を編成せらるるに方り独立歩兵六百三大隊の編成を担任せしめられ大隊長山内大尉以下一、三九五名は当陽地区に於て四月二十九日編成を完結す
	左記の如く発令せらる
	任 陸軍少将 官 下文 夫
	任 陸軍中將 官 下文 夫
	補 歩百六十師団長 官 下文 夫
	補 陸軍大佐 加 藤 勝 藏
	補 独立歩兵六十一旅団長
	(以上昭二〇、四、一付)
	旅団は依然として担任地区の警備に任ず

独立歩兵少二百三十二大隊略正

年月日	概 要
昭二六	軍令陸甲才百一六号により編成下令於南昌
二八、三、一	編成下令
三、二	編成着手於南昌
三、五	編成完結於南昌
三、九	南昌出發、警備移動
四、一	漢口出發
四、三	隨景浙河着附近の警備
二〇、三、二	昭和二十一年軍令陸甲才十八号に依り編成改正下令於浙河
三、六	編成着手 於浙河
三、五	編成完結 於浙河
八、五	復員下令 於浙河
九、九	孝感集結の爲、浙河出發 移動
九、二五	樂結（復員の爲）於孝感
二二、三、二七	内地帰還の爲孝感出發 移動（復員の爲）

(207)

0220

年月日	
昭和五、四	南京出発
五、五	復員の海上上海到着
五、七	上海出帆
五、三	博多港上陸
要	

(208)

0221

独立歩兵才十一旅団
 独立歩兵才二百三十三大隊
 部隊略正

年月日	概	要
昭、九、三、一二	歩兵才六十八師団（九江）に於て編成を担任す	
三、一五	編成完結し同日独立歩兵才十一旅団長の部下に入る	
三、一九	九江を出発し陸路徒歩行軍を以て担任警備地に留り前進す	
四、二	中華民国湖北省岳陽迄水に到着し同地附近鉄路両側地区に警備に任ず	
五、一	の同一部を以て担任地隊の警備に任じ主力を以て京漢作戦に参加し將受後主力を以て任務を履行し一部（ニヶ隊）を岳陽城附近警備の爲旅団直轄を以て	
至、六、二五	主力の警備地を交代し岳陽城周辺地区の警備に任ず	
二〇、一、一九	の同主力を以て襄陽作戦に参加し將受後前任を履行す	
自、二、四	停戦詔書発令せらる	
至、四、一九	復員下令せらる	
八、一四	任地を撤収し	
八、二五		
九、二一		
九、二八	湖北省孝感縣孝感鎮附近に兼中す	

(209)

0222

年月日	経 要
昭二、四、二九	復員のたの岩蔵（隊中督）を津港列車轉送に依り北支至由上湯に向う
五、六	上海に到着し検疫の為
自五、七	の間同地に滞在す
至五、二〇	駆逐艦杉楨、海防艦八七号に乘船し五月二十一日出帆す
五、二一	飛鳥高港に到着し
五、二四	上陸す
五、二七	復員式を挙行し同日解散帰郷す
五、二八	残務整理の為補隊長以下四名二日市に到着、同日召集解除、帰航
五、二九	残務整理完了、復員完結
六、七	

(210)

0223

独立歩兵第十一旅団
 独立歩兵二百三十四大隊
 部隊略正

年月日	概要
昭一九、二、九 三、一五 三、一七 三、二一 三、二一 至 四、三〇	<p> 部隊名 独立歩兵才二百三十四大隊 (福才五三八師部隊) 部隊長官氏名 陸軍少佐 荒 木 三治郎 編成完結状況 部隊は軍令陸甲才百十五号に總り才五十八師団編成担任部隊となり中華民国湖北省沔陽縣沔陽城に於て 編成開始 編成を完結す同日独立歩兵才十一旅団長の隷下に入る 編成定員 一團二七名 行動の概要及其の日時 沔陽警備のため 沔陽城に於て 沔陽に到着 沔陽附近警備隊事 </p>

(211)

0224

年月日	概	要
昭和一九、五、一	京漢作戦に参加	—— 確山周を作戦行動止し戦闘せず
昭和一九、六、二五	信陽附近警備に従事	
昭和一九、六、二六	大東亜戦争終戦に伴い部隊乗組のため	
昭和一九、八、一四	信陽出発	
昭和一九、九、二四	湖北省孝感県に到着	
昭和一九、九、二八	孝感日俘管理所に収容	
昭和一九、二、二七	復員のため	
昭和一九、四、二七	鉄道輸送	
昭和一九、四、二七	（孝感）—— 鄭州 —— 徐州 —— 南京至田へ上海に向い前進	
昭和一九、五、五	上海到着	
昭和一九、五、一六	上海より乗船出発	
昭和一九、五、二二	博多港上陸	
昭和一九、五、二二	復員す	
昭和一九、五、二二	兵力 復員人員一〇一五名	

(2/2)

0225

所 在 不 明	生 死 不 明	死 亡	入 院 療 養	退 陣 除 隊 者	一 三 九 名
一 名	二 名	九 四 名	四 四 名		

(2/3)

0226

自 一、三、三一	至 一、三、三一	一、四、三二	一、四、三二	自 四、二六	至 四、二六	自 五、一	至 五、一	自 五、七	至 五、七	自 五、二八	至 五、二八	自 六、二	至 六、二	自 六、一六	至 六、一六	自 六、二五	至 六、二五	自 二〇、一、二八	至 二〇、一、二八	自 七、一八	至 七、一八	自 七、二一	至 七、二一	自 八、一四	至 八、一四	自 八、二〇	至 八、二〇	自 八、二五	至 八、二五
<p>鹿山地区警備並に通信連絡に任ず</p>		<p>京漢作戦参加の目的を以て觀中尉以下七十二名を山崩死 衝動に棄給</p>		<p>京漢作戦に參加通信連絡に任ず</p>		<p>京漢作戦閩贛山附近の警備並に通信連絡に任ず</p>		<p>京漢作戦閩贛山附近の警備並に通信連絡に任ず</p>		<p>京漢作戦終了原駐地鹿山に帰還附近の警備並に通信連絡に任ず</p>		<p>隊長陸軍中尉植信茂總軍連絡のため漢口——南京下竈中石灰壟附近に於て 敵雷指針のため戦死す、武田中尉隊長代理</p>		<p>兵科見習士官坂入正賢補獨立歩兵才十一旅団通信隊長</p>		<p>陸軍少尉武田緋人補獨立歩兵才十一旅団通信隊長</p>		<p>停戦詔書発令</p>		<p>陸軍少尉三谷和治補獨立歩兵才十一旅団通信隊長</p>		<p>復員下令</p>							

年 月 日	概 要
昭二〇、九、二	停戦協定締結
九、二三	孝感地区蒙難のため武田中尉以下八十九名延山山崩死
九、二九	孝感到着
三、三、一	坂入少尉 六十五師団に転属
四、二九	内地運送のため武田中尉以下七十六名孝感米港 —— 鄭州 —— 豫州 ——
五、六	上海到着
五、二一	上海港出帆
五、二八	旅世保上陸
	復員 武田中尉以下七十四名

(216)

0229

独立歩兵才十二旅団司令部略証

年月日	概	要
昭二〇、五、五	<p>縮成部隊</p> <p>独立歩兵才十二旅団</p> <p>独立歩兵才十二旅団司令部</p> <p>独立歩兵才二三五大隊</p> <p>独立歩兵才二三六大隊</p> <p>独立歩兵才二三七大隊</p> <p>独立歩兵才二三八大隊</p> <p>独立歩兵才十二旅団通信隊</p> <p>縮成地 南京</p> <p>南京 司令部</p> <p>旅歩二三八大 旅団通信隊</p> <p>徐景 旅歩二三七大</p> <p>蕪湖 旅歩二三五大 旅歩二三六大</p> <p>縮成担任官 才六十一師團長</p> <p>旅団長村田少將は陸軍歩兵学校附に勤務し後任として北支那方面軍司令部附</p>	

(2/7)

0230

年月日	概 要
昭二〇、六、五 八、一七 九、二九	<p>陸軍大臣夏永壽次郎(昭二〇、六、一〇少將に達級) 着任す</p> <p>終戦に關する大詔を拜受す</p> <p>(一師は十月十日)中國陸軍才五十六師に對し兵站、被服之の類一切の接收を完了す</p> <p>終戦當時湖南部隊北上中にして左記部隊は咸寧附近に停止を命ぜられ旅団長の指揮下に入り爾後復員管理官を命ぜらる</p> <p>左 記</p> <p>戦車才三連隊</p> <p>獨立榴重兵才四連隊</p> <p>自動車才三十五連隊</p> <p>自動車才三十六連隊</p> <p>獨立自動車才三十一大隊</p> <p>獨立自動車才三十二大隊</p> <p>才五十四野戰道路隊</p> <p>才七十一兵站地区隊</p> <p>才一師用渡河材料中隊</p>

(218)

0231

六、一六	五、三〇	六、一七	五、一八 六、二二	昭三、四二〇
<p>昭和二十一年六月十六日 独立歩兵第十二旅団長代理 陸軍少佐 原田芳一</p>	<p>旅団司令部兵力左表の如し 浮城准士官二五、下士官八二、兵一五七、軍属一、計二六五</p>	<p>旅団以下四名は中国側より架船を中止せられ上海に残留したり 処刑者五十九名は 青島上陸と共に福爾地方官憲に移管を完了せり</p>	<p>独立騎軍兵才面運隊の上陸を最後に夫々内地に上陸を完了し各部隊毎に復員 式を突前し同日除隊せしめたり</p>	<p>旅団司令部を最後とし威海衛港内旭滯留の途に就き先ず此旨に集結此旨より は汽船直に尾船に依り南京に上陸爾後鉄道に拠り上海家船架船を待機す の間に全部隊の架船を完了</p>

根立歩兵才十二敵田司令部の一部略征

陸軍中尉 宮田 実

年月日	概	要
昭三、五、一〇	復員本部に先遣を命ぜらる(宮田中尉以下二名)	
五、一八	上海出帆(四号に乗船)	
五、二四	神戸上陸 同日二日市着	
五、二五	復員本部に出頭、人員班長の指示に依り先遣としての業務処置必要なきため帰郷を命ぜらる	
	同日除隊召集解除	

独立歩兵第十二旅団司令部（一部）附正

陸軍少佐 原田芳一

年月日	概況
<p>五、二五</p>	<p>旅団司令部は副官原田少佐指揮の許 上海市政府に於て擔行衛衛検査受検後直ちに四九七号に乘船を命ぜられ輸送 指揮官機車中三連隊長田幡大佐の指揮に入り同時前日乗船せる飲水隊（旅団 先遣隊）処刑場を掌握原田少佐併せ指揮す</p>
<p>五、二八</p>	<p>上海出港途中同乗の才一八二野戦病院患者中より一名の板蓋退治一名発生新 望隔離並全般消毒を徹底にし何人防疫に徹底せし結果感染を防止し得たり</p>
<p>五、二九</p>	<p>博多港着港 上陸才三枚原源に隔離を命ぜらる</p>

獨立歩兵才十二旅団
獨立歩兵才二百三十五大隊

部隊略正

陸軍少佐 萩原一門

年 月 日	概	要
昭、一九三二〇	昭和十八年夏軍令陸甲才百十五号並陸匪察才百八十四号に依り中華民国空 徽省蕪湖に於て編成を完結す	要
三、二六	移駐のため蕪湖出發	
四、八	湖北省通山渠蒲林橋獨立混成才十七旅団より該地附近警備總承任務に就く 任務は武漢地区跟前線の防往湖南休戦の開始と共に其の兵站線（道路、通信 線、糧食）の確保を併任す	
二〇、四、二九	才六方面軍休戦に基き挺身大隊として蕪湖大尉以下二百五十名湖南益長沙前 面警備總援のため出發	
八、一〇	原隊に復帰す	
終戦のため	湖北省咸寧景馬橋に移駐	
八、二四	中甸軍の該地進駐に依り兵站其の他軍需物資の接収を了し才六戦区才十日本 官兵管理所に収容せらる	
九、三〇		

<p>三、四、一八</p>	<p>爾後同地に於て復員を符檄中國側の勞役に服す</p>
<p>四、二六</p>	<p>復員將還の巨め原駐地出發</p>
<p>五、三四</p>	<p>武昌出發</p>
<p>六、一一</p>	<p>上海出發</p>
	<p>山口縣仙崎港に上陸主力の復員を実施す</p>

(223)

0236

独立歩兵才二三六大隊略正

陸軍大尉 岡崎 順一

年月日	概
昭二〇、四、二九	<p>昭和二十一年四月二十九日 陸軍大尉 岡崎 順一</p> <p>昭和二十一年四月二十九日 陸軍大尉 岡崎 順一</p> <p>編成完結す</p> <p>部隊名 独立歩兵才二三六大隊</p> <p>部隊長 岡崎 順一</p> <p>編成状況</p> <p>大隊本部 各大隊より抽出混成</p> <p>才一中隊 独立歩兵才二三五大隊より建制一中抽出</p> <p>才二中隊 全 才二三七大隊より建制一中抽出</p> <p>才三中隊 全 才二三八大隊より建制一中抽出</p> <p>才四中隊 全 才二三五大隊より抽出</p> <p>才五中隊 全 才二三七大隊より抽出</p> <p>歩兵砲隊 各大隊より抽出混成</p> <p>通信隊 各大隊より抽出混成</p> <p>同地に在り之地区並に興漢鉄道の密輸</p>

0237

昭二〇、六、一五	大隊長陸軍大尉國崎順一本土兵備毀滅として敵寇の反の手段樹出せ
七、一四	補強立歩兵才二三六大隊長陸軍大尉川畑篤武
九、二	停戦決定締結
一〇、二〇	湖北省咸寧縣橫溝橋武漢行營才十號浮管埋所に築中
二一、五、二五	上海港水帆
五、三一	得野港上陸
	復員
	死傷陸軍着官比名
	陸軍大尉 川畑篤武
	陸軍曹長 荻野光吉
	陸軍伍長 北本幸雄

(225)

0238

独立歩兵才二三七大隊 部隊略正

陸軍少佐 高橋栄二郎

年月日	秘要
昭二九、三、二〇	<p>編成部隊</p> <p>大隊名 獨立歩兵才十二旅団獨立歩兵才二三七大隊</p> <p>中隊名 獨立歩兵才二三七大隊本部</p> <p>獨立歩兵才二三七大隊才一中隊</p> <p>獨立歩兵才二三七大隊才二中隊</p> <p>獨立歩兵才二三七大隊才三中隊</p> <p>獨立歩兵才二三七大隊才四中隊</p> <p>獨立歩兵才二三七大隊才五中隊</p> <p>獨立歩兵才二三七大隊歩兵砲隊</p> <p>獨立歩兵才二三七大隊通信隊</p> <p>編成地 中華民國江蘇省除泉</p> <p>編成担任官 才六十一師團長</p> <p>編成宛籍日</p> <p>部隊長 陸軍少佐 高橋栄二郎</p>

10 中 支 ぐ の 田

昭一九、三、三二	編成地江蘇省隊隊を以て任地に向う
四、五	湖北省蕭沂泉羊棧商に到替前任獨立混成隊第十七旅團獨立歩兵隊九十七大隊より警備に關する任務を継承し該地附近の警備に任ず
六、一三	湖北省通城縣に移駐警備
自 一〇、一六	の箇才十三期團才十九年度做康現役兵の才一期教育を担任す
三、一	の箇才六十四期團道進補充要兵の補備教育を担任す
二、二二	昭和二十年軍令甲才十一号及同軍陸軍軍務部令才六十号に依り獨立歩兵隊十二旅團獨立歩兵隊才二三六大隊を建制の終才一三二期團編成要員に充當せられたる
二、三、一五	により新獨立歩兵隊才二三六大隊編成の爲才一中隊陸軍中尉板井沢一以下を同大隊編成要員に充當す
三、一五	昭和二十年軍令甲才十八号及同軍陸軍軍務部令才六十五号に依り獨立歩兵隊才二三七大隊才一中隊を編成す
四、四	昭和十九年度做集現役兵到替す
八、一四	終戦に關する詔書拝受
八、二五	復員を下々さる
九、二	停戦後定術結さる

年月日	概	要
昭二〇、九、二六	中国陸軍新編才十三師に対し一部の軍需品を接收の上移駐の爲湖北省滑折縣滑折に移動到着	
一〇、九	中国陸軍才五十六師に対し軍需品一切の接收を完了す	
一〇、三〇	中国才六戦区才十日本官兵管理所に兼中の爲湖北省武昌縣賀勝橋に到着す	
自 一〇、三〇	の南中国才六戦区才十日本官兵管理所の管理を變く	
至 二、四、一六	復員の爲湖北省武昌縣賀勝橋出張所へ送る	
二、四、一七	湖北省武昌縣武昌縣	
四、二二	中華民國民船十五隻に分架南京に	
四、二七	南京より列車輸送により	
五、一〇	上海に到着す	
五、一三	復員諸準備並に檢査を完了	
五、二六	V一〇〇号により上海出帆博覧に向ふ	
五、二九	内地港灣博覧に到着直ちに檢査の結果便隊より伝染病懸着発生し	
六、一七	返V一〇〇号において隔離を受く	
六、一八	博覧港上陸	
六、	残務整理終了す	

(278)

0241

0241

独立歩兵才十二旅団
独立歩兵才二百三十八大隊

部隊略正

陸軍中佐 山本多賀吉
陸軍大尉 小沢 薫

年月日	概	要
昭和十九年三月二十日 至 二十九年九月七日 至 三十二年六月六日	部隊名 独立歩兵才十二旅団 大隊長官氏名 陸軍中佐 山本多賀吉 陸軍大尉 小沢 薫 縮成完結状況 軍令陸甲才百十五号により独立歩兵才十二旅団独立歩兵才二百三十八大隊縮成下令 縮成業務着手 南京に於て之独立歩兵才十二旅団独立歩兵才二百三十八大隊縮成完結 将校三八名 下士官一五五名 兵一二二六名	

年月日	概
昭、一九三、二〇	南京に於て編成完結
三、二七	粵漢線警備のため南京出發
四、八	湖北省蕭圻景汀泗橋到着
自 四、八	汀泗橋附近の警備
至 二〇、二、五	
自 二〇、二、六	咸寧地区の警備並に洩閘
至 二一、八、一五	内地滯留のため武昌出發
二一、四、三〇	南京到着
五、一五	南京出發
五、一七	上游到着
再、一、九	上海港出帆
五、三〇	仙崎港上陸
六、六	復員完結
六、二四	

ア
イ
ウ
エ
オ

独立歩兵才十二旅団通信隊部隊略正

陸軍大尉 飯川 蔵

年月日	概	要
昭二九、三、三〇	南京に於て独立歩兵才十二旅団編成完結	
三、三〇	南京出発	
四、四	湖北省咸寧に到着同地附近の警備	
自 四、一五	湖北省咸寧県咸寧附近の警備	
至 一、四		
自 二、五	湖北省咸寧県咸寧地区警備並に戦闘	
至 二〇、八、一四		
二〇、八、一四	停戦詔書発布	
八、二五	復員下令	
九、二	停戦校定締結	
二一、四、一九	湖北省咸寧県咸寧出発	
四、二四	武昌着	
四、二六	武昌(船箱)出発	
五、一	南京着	

(231)

0244

第 八 十 二 兵 站 地 区 隊 本 部 略 正

陸軍大佐

池田賢十郎

年 月 日	概 要
昭二九、二、六	臨時勅賣下令
二、一〇	編成着手
三、一五	編成完了
三、一	編成地大阪出張
三、三	門司港出張
三、四	釜山港上陸
三、九	安東道遊
三、一一	山海関道遊
四、二八	湖北省鄂城原野店集結
五、一〇	湘桂作戰第一期に参加湖南省に於て兵站業務
八、八	
八、九	
至 三、九	湘桂作戰第二期に参加湖南省に於て兵站業務

年月日	概	要
昭、一九、九、一〇 自 至 一、一〇	湖南省衡陽に移駐	
二〇、三、二八 自 至 三、一一	湘桂作戰才三期に参加、湖南省に於て兵站業務	
六、一〇 自 至 六、一一	湘西作戰に参加、湖南省に於て兵站業務	
八、一四 自 至 八、一五	湖南省に於て兵站業務	
二五、一〇 自 至 二五、一一	主として湖南省長沙、張家市に在りて復員業務	
五、一一	内地帰還の為並前赴出張（主力）行軍に依り	
五、一六	岳州到着	
五、一九	岳州、岳陽、岳陽に在りし先隊と合流	
五、二五	岳州、岳陽、岳陽に在りし先隊と合流	
六、一六	上海到着	
七、一	上海港出張	
七、九	新賀港上陸	
七、一一	除隊召集解除	
七、一九	業務整理完了	

以

内

レ

中

支

その

四

<234>

0247

第八十二兵站警備隊部隊略正

陸軍少佐 島津 精男

年月日	概	要
昭和九、三、六	臨時勤買下令	
二、一〇	編成業務着手	
二、一五	大阪に之編成完結	
三、一一	滿成時定足人員將校二七名准下士官一三一名兵八八七名	計一〇三五名
三、一四	山海關通過	
三、一四	南京着	
四、二八	湖北省鄂城縣葛店に乘船	死歿者人員兵一名
五、一〇	湘桂作戦第一期に參加湖南省に於て之兵站地勤務に従事	
七、一三	湖南省湘潭原酒潭に移動兵站地勤務に従事	
八、八	湘桂作戦第一期間死歿者人員將一名下士官一名兵八名	
八、九	湘桂作戦第二期に參加湖南省に於て之兵站地勤務に従事	
八、一六	警備隊長陸軍少佐 島上連部	
九、一四	湖南省衡陽縣衡陽に移動兵站地勤務に従事	

(235)

0248

年月日	概要
昭二九、三、九	湘桂作戰才二期間死着人員下士官四名兵二〇名
(三、一〇)	湘桂作戰才三期に參加湖南省に於て兵站地勤務に従事
三〇、一、三〇	補欠員一三〇名
三、二八	湘桂作戰才三期間死着人員下士官二名兵四名
三、一	湘西作戰に參加湖南省に於て兵站地勤務に従事
六、一〇	湘西作戰間死着人員下士官一名兵三名
六、一三	本土兵備要員として准下士官五六名東北軍管区に駐属のため湖南省衡陽縣衛
八、一五	停戦 湖南省衡陽縣衛陽
九、一〇	湖南省長沙縣長沙に移駐
九、一九	湖南省長沙縣撈刀市に移駐
三、五、一一	駐留待機間死着人員下士官五名兵四八名
五、一二	湖南省長沙縣撈刀市より復員の為行動開始
六、一五	漢口——鄭家——徐州——南京——上海
六、一五	江蘇省上海高麗廟に到着
六、二八	行動間死着人員兵二名
六、二八	上海出発

(720)

0249

	昭二、七、六 七、八
	浦賀上陸 除隊召集解除

(237)

0250